Ⅱ 重 点 項 目

1 豊かな人間性の育成

情報化やグローバル化等により社会が急速に変化する中、子どもたちが自立した人間として他者と共によりよく生きていくためには、家庭や地域との連携を図りながら、全教育活動を通じた道徳教育の充実や、望ましい集団活動を通した互いに支え合う心やよりよい人間関係を築く力の育成、地域や社会とのつながりを実感できるキャリア教育の充実に努めることが重要です。

また、生涯にわたって読書に親しみ、豊かな人生を送ることができるよう、感性を磨き、創造する力を培う読書活動の充実を図ることが大切です。

１－１ 道徳教育の充実　　１－２ 人間関係を築く力の育成
１－３ 郷土に根ざしたキャリア教育の充実　　１－４ 読書活動の充実

１－１ 道徳教育の充実

価値観が多様化する社会において、人と人との関わりを通してよりよく生きるための基盤となる道徳性をはぐくむことが大切です。そのためには、全教育活動を通じた道徳教育の推進を図るとともに、学校、家庭、地域が相互に連携しながら、計画的に指導することが重要です。

また、道徳教育の要として、自己を見つめ、人としてのよりよい生き方やあり方について深く考え、語り合う道徳科の充実を図ることが重要です。

■全教育活動を通じて行う

□学校の道徳教育の重点目標、各教科等における道徳教育に関連する事項、家庭や地域との連携の方法などを示した全体計画を作成し、自校の道徳教育の方向性を全教職員で共有する。

□道徳教育推進教師を中心に、全教職員がそれぞれの立場から、自校の道徳教育の重点目標の実現に向けて、連携・協働する指導体制を整える。

□子どもの実態や地域の願いを踏まえ、目指す子ども像や身に付けさせたい力を明確にして、指導内容の重点化を図る。

□各教科等における道徳教育の指導内容および時期等を示した全体計画の別葉を活用し、各教科等の学習内容や体験活動との一層の関連を図り、道徳的諸価値を意識した指導を行う。

■家庭や地域と連携する

□学校報や学年通信、ホームページ等を通して、道徳教育に関する諸活動の情報等について積極的に発信する。

□道徳科の授業を公開したり、道徳教育に関する取組についてＰＴＡの懇談等で話題にしたりするなど、家庭や地域との共通理解を深め、相互の連携を図る機会を設定する。

□地域素材や人材の活用、地域行事等への参加など、子どもの道徳性をはぐくむための取組のあり方について、学校運営協議会等で協議する。

■要としての道徳科の充実を図る

道徳教育推進教師を中心とした取組の推進

□各教科等の学習内容や体験活動と関連付け、身に付けさせたい道徳性や重点内容項目、年間指導計画等について、共通理解を図る。
□教材研究や授業の相互参観、情報共有を行うなど、学校や学年部がチームとなって授業づくりに関わる。

ＰＤＣＡサイクルを生かした授業改善

（→Ｐ５０　道徳科参照）

Ｐｌａｎ（計画）

□内容項目について理解し、子どもの実態把握をするなど、明確な指導観を持ち教材研究をする。
- 教材の効果的な活用の吟味
- 子どもに考えさせたいことや話し合わせたいことの明確化
- 授業の展開や発問の吟味
- 板書構成の検討
- 教具等の作成　　など

Ｄｏ（授業実践）

□指導のねらいに即して、問題解決的な学習や道徳的行為に関する体験的な学習等を取り入れるなど、多様な指導方法を工夫する。
- 日常生活や学校行事等との関わりを想起させる場面の設定
- 発問の精選
- ペアでの対話やグループ等の話合いの場の設定
- 動作化や役割演技等の表現活動の設定
- ネームカード、心情メーターなどの教具の活用
- 互いの考えの視覚化、全体での共有等におけるＩＣＴの活用
- 子どもが思考の流れを振り返ることができるような板書
- 振り返りの視点の提示　　など

Ｃｈｅｃｋ（評価）

□授業中の表情や発言、記述などから子どもの姿を見取り評価する。
＜評価の視点＞
◇一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展させているか
◇道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか
□ねらいに即した指導の手立て、子どもの思いや考えを生かした学習の展開などの視点から授業を振り返る。

Ａｃｔｉｏｎ（改善）

□子どもの学びの姿から授業をとらえ直し、指導の工夫・改善を図る。
□目指す子ども像や重点内容項目に照らし、子どもの変容等について話し合い、全体計画や別葉等の見直しを行う。

1－2　人間関係を築く力の育成

よりよい人間関係を築くことができる力を育成するためには、自分や他者を理解し、自分も他者も大切にする態度をはぐくみ、互いの心が通い合う集団づくりに努めることが大切です。

また、集団の一員として主体的に行動できるよう、規範意識の涵養を図ることが重要です。

■自分や他者を理解し、自分も他者も大切にする態度をはぐくむ

□道徳科や特別活動等において、自分の思いや考えを表現し、互いに認め合う場面を設定するなど、相互の理解を深める活動を取り入れる。

□係活動や委員会活動、学校行事等において、一人ひとりが役割を担い、互いのよさを認め合う場を設定することで、自己有用感を醸成する。

□誰もが自信を持って自分の考えを話すことができるよう、互いの立場や考えを尊重して伝え合う場を設定するなど、一人ひとりの意見を大切にしようとする態度を育てる。

□学校生活の諸課題について話し合う活動を通して、様々な意見にふれることで、考えを広げたり、折り合いを付けて調整したりする力を育てる。

＜取 組 例＞

- 合唱コンクールに向けた練習についての話合いを行い、これまでの練習方法を見直し、自分と異なる考えにふれたり、複数の考えを組み合わせたりしながら、よりよい練習方法について見直しを図った。

■互いの心が通い合う集団づくりに努める

□教師が子どもとのふれあいの中で、一人ひとりの様子や言動を見取り、価値付けることで、子ども同士が互いの個性を尊重し、多様な価値観を認め合うことができる受容的な雰囲気づくりに努める。

□他者と協働することの大切さや素晴らしさを実感できるよう、一人ひとりが役割を果たし、仲間と共につくりあげる体験活動等の充実を図る。

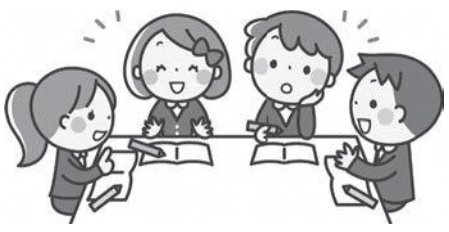
□誰にでも間違いや失敗があることを認めたり、自分と異なる意見や考えに向き合ったりする機会をとらえ、互いに尊重する態度をはぐくむ。

□Ｑ－Ｕ調査やふれあいノート等の活用を通して、子ども一人ひとりの実態や集団の状態を把握し、子ども同士の関わりを大切にした集団づくりに努める。

■規範意識の涵養を図る

□道徳科や特別活動等において、集団の一員として互いに気持ちよく過ごすために必要なことについて考える場面を設ける。

□学級会等で、子どもたち自身が、ルールやマナーの意義について話し合ったり、新たなルールを考えたりする活動を通して、安心・安全に生活するためにルールやマナーがあることを理解できるようにする。



１－３　郷土に根ざしたキャリア教育の充実

将来、子どもたちが社会の一員として、それぞれの個性や持ち味を最大限に発揮しながら、自立して生きていくために必要な資質や能力を身に付けていくことができるよう、各教科等において、地域や様々な人との関わりを重視し、学ぶ目的や学び続けることの意義について理解を深める指導の充実を図ることが重要です。

また、子どもが地域や社会とのつながりを実感できる体験活動の充実を図り、ふるさとへの愛着と誇りをはぐくむことが大切です。

■各教科等と将来の生き方をつなぐ指導の工夫

□各教科等の学習において、今学んでいることが社会でどのように活用され、自分の将来の生き方とどのようにつながっていくのかについて考える場を設定し、学ぶ目的や学び続けることの意義について理解を深めることができるようにする。

□各教科等の学習や学校行事を通じて学んだことなどを記録として蓄積し、新たな学習や生活への意欲を高めたり、将来の生き方や社会とのつながりを考えたりする活動を行う際に活用する。

■地域や社会とのつながりを実感できる体験活動の工夫

□地域の企業等と連携した職場体験活動や講話会を実施するなど、自分の生き方や社会との結び付きについて考える機会を設定する。

□学校行事や地域の行事に参加し、様々な立場や役割を経験することを通して、互いに協力し合うことや人の役に立つことの喜びを実感できるようにする。

□子ども自身が体験活動を意義付けたり価値付けたりすることができるよう、活動の目的や課題を明確にするとともに、取組の成果を地域に発信するなど、事前・事後の活動を充実させる。

■ふるさとへの愛着と誇りをはぐくむ活動の推進

□特別活動をはじめ、各教科等において、家庭や地域との関わりを通してふるさとへの愛着をはぐくむとともに、ふるさとのために自分ができることについて考える機会を設定する。

＜取 組 例＞

- 地域の歴史や伝統文化について調べる学習や地域で活躍する人を招く講話会など、地域の素材や人材を活用した取組を通して、自分と社会の結び付きについて考えた。
- 地域の自然環境について調べたり、地域や関係機関等と連携した清掃活動に参加したりし、地域の自然の豊かさについて理解を深めた。

□地域の歴史や文化についての理解を深めるため、社会教育施設（Ｐ６２社会教育施設等参照）や地域の史跡、「小・中学校出前講座」を活用した活動の充実を図る。

1－4　読書活動の充実

読書活動を通して、感性や創造力を豊かにし、感動や喜びを味わうとともに、生涯にわたって読書に親しむことができるよう、多様な本にふれる機会の充実を図ることが大切です。

また、子どもたちが本を身近に感じる環境づくりに努めるなど、読書意欲の向上と読書習慣の定着のための取組を計画的に進めることが重要です。

■多様な本にふれる機会の充実

□発達の段階に応じた読み聞かせやブックトーク等の実施により、様々なジャンルの本にふれる機会をつくる。

□全校一斉読書の時間など、子どもが自ら選んだ本とじっくり向き合う時間を設定する。

□委員会活動による本の紹介や読書集会の企画など、交流を通して読書の楽しさを共有する場を工夫する。

□コーナー展示を工夫し、読書や調べ学習に活用するなど、各学年部や教科部等と連携した取組により、子どもの知的好奇心を醸成する。

【ボランティアによる読み聞かせ】

■本を身近に感じる環境づくり

□くつろいで本を読むことができるような机や書架の配置、テーマ性を持たせた本の展示、本の世界へと誘う図書館前の掲示など、子どもが足を運びたくなる魅力ある図書館づくりを進める。

□廊下や多目的ホール等に本の展示スペースを設けるなど、子どもがいつでも本を手に取り、読むことができる環境の整備・充実を図る。

□学校司書と連携し、学級文庫や図書コーナーの定期的な更新を行う。

【新聞記事を活用したコーナー展示】

子どもと本をつなぐ取組

子ども同士の交流による読書活動などを工夫することにより、読書の魅力を伝え、本と出会うきっかけをつくることが大切です。

多様な本にふれ、本を選ぶ体験をする

読書まつり等、本に親しむ活動を企画する

読み聞かせを通して、読書の楽しさを伝える